

地域の未来テーマに討論

四日市の富田中生と住民

四日市市富田中学校の生徒と地域住民による「中学生と語る富田の未来」と題した討論会が十三日、富田地区市民センターで開かれた。伝統文化の継承や防犯、地域の魅力向上などについて熱く意見を交わした。

(片山さゆみ)

富田中からは二年生六人が参加。三人が代表して地区の魅力をテーマにした作文を発表し、その内容をもとに議論を進めた。住民側は富田地区まちづくり協議会や祭りの保存団体、PTAなどが出席した。

鳥出神社の鯨船行事や右取祭と、いった伝統文化の継承について、冬賀帆志君は「参加したい人がいても、方法が分からないのでは」と質問。富田まつり協議会鯨船四艘会の加藤正彦会長は「唄や太鼓、歴史的な調査など、さまざまな形で祭りに関わることはできる。まずは情報発信が大事だと思う」と応じた。

空き家の活用では、樋口凜さんが「子どもたちが遊んだり、大人から伝統文化を学んだりする交流場所としては」と提案した。富田地区自主防災隊の渡部悟隊長は「良い提案だと思つ。子どもたちが自由に集まれる場所がもっとあってもいい」と賛成した。

上平紫央里さんは「現実的な話も聞けて、勉強になった」と振り返った。富田地区まちづくり協議会と学校との交流は二〇一八年から始まり、討論会は三回目。新型コロナウイルス感染症防止のため、傍聴者を限定し、飛沫防止パネル

やマスクなどの対策をして実施した。同協議会の伊藤靖隆会長は「大人と全く違う視点で感じた。地元の将来を真剣に考えてくれて頼もしい」と話していた。

伝統文化の継承や魅力向上など



富田地区の将来について意見を交わす生徒と住民たち。四日市市富田1の富田地区市民センターで